



横になった夏葉の
ストッキングを破り
仄かに濡れた。秘部が
あらわれた。夏葉は羞恥と期待が
混ざった表情で
こちらを見つめている。

つい先ほど射精したにも
関わらず
夏葉の締めりのよい桃尻を
眺めてみると
否が応でも下半身が
熱くなってくる。

そうあまり
じろじろ見られると
流石に恥ずかしいわ…♡

いや夏葉のおまんこは
相変わらずきれいだなって

すごい
さつきよりも
どんだん
大きくなって♡

…ツ♡そんなことを
真顔で言われると
反論する気も
おきないわ…♡

びわ…♡

ギンギン

あっ♥んあっ♥
プロデューサーの
長いおちんちんが
奥まできて♥♥が
んっ♥こすれてるわ♥

くっ!
夏葉の膣肉が
どんどん絡みついてくる!

夏葉の密壺はあつさり
俺のモノを受け入れ
ぎゅっつと絡みついてくる。

夏葉の筋トレマンコの
締めまりがヤバすぎる!
チンポが折れそうだった!

あっ♥んんっ♥
何バカな事を
あいつてるのよもう♥
ああんっ♥

4270

4270

4270

びく

びく

子宮口を小突くと
アナルがキュって
締まるし
本当に奥が弱いんだな

そんなあ
プロデューサーの
いいおちんぼのせいよ
ん♡♡♡

びん

110
110
110
110

にゅわん
にゅわん
にゅわん

あつ

あつ

あつ

あぁっ♡はっ♡
頭が蕩けて
下半身がどんどん
気持ち良く蕩けてくるっ♡

やっ♥あああ♥
これ以上は私♥
おかしくなつちやうわ♥
やあ♥あああ♥

恥ずかしがることは
ないぞ
しつかり臆突いて
本気アクメさせて
やるからなっ!

ダメツ♥
こんなの知らないっ
あ♥ん♥あ♥あ♥あ♥
あ♥あ♥あ♥あ♥
あ♥あ♥あ♥あ♥





射精すぞっ!!

アッ!
アッ!
アッ!

アッ!
アッ!
アッ!

アッ!
アッ!
アッ!

アッ!
アッ!
アッ!

ビッ!
ビッ!
ビッ!

アッ!
アッ!
アッ!

はーっ♥はーっ♥
はっしたなく
イってしまっただわ♥

プロデューサーの
熱いのでお腹が
ぱいだわ♥

夏葉もう一回
お願いできるか？
お願いが
チンポが
収まらないんだ

ふふっ♥
しよっ♥
アタガが
私を犯してっ…
♥♥♥
すむまで



ひゅん

ド
ド
ド

びん

は

は

は

夏葉にパイズリを申し出ると
快く了承してくれた。
早速俺は馬乗りになり
夏葉の程よい乳肉を寄せ
パイズリを楽しむ。

弾力と張りのある乳圧が
肉棒を刺激し気持ちいい。
夏葉の仄かない香りも
漂ってきた。

むいゅ

んん

むいゅ



私のおっぱいから
おちんちんが顔を
出したわ...
引込んだりして...
何だかわいいわ♡

夏葉のパイズリ
天国まで昇るくらい
気持ちいいよ

ふふ...♡
それは大げさすぎるわよ
プロデューサー♡

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

夏葉のエロボディと
メス臭も相まって
興奮が収まらないっ！

ちよっと♡
においを嗅ぐのは
流石にちよっと
恥ずかしいわ♡

ぷんぷっ♡ふっ♡
プロデューサーの
おちんちんも
だんだん大きくなってっ♡

あ
♡

あ
あ

あ

あ
♡

はあっ♡はっ♡
すごい♡おちんぽ
パンパンになつてる♡
もうすぐいきそうなのね♡

そろそろ射精すぞっ!!
夏葉の乳マンコにつっ!

ああっ♡はあ
アタのザーメン
いっぱい射精してっ♡

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

はーっ♥はーっ♥
とても濃い精液
顔に射されちゃったっ♥
ふっ♥すんすん♥
頭が真っ白になる♥

こんなの嗅がされたら
私我慢できないわ♥
ねえプロデューサー♥
この続きお願いしても
良いかしら?

キョッ
キョッ
びん

はーっ♥
はーっ♥

はーっ♥

ズンッ♥



珍しく夏葉から誘われて
ホテルへと入った。
露わになった俺の肉棒は、
ただ夏葉にしてももらえるという期待だけで
恥ずかしいほどに屹立していた。

夏葉の息遣いが
肉棒から感じられる。
アイドルの傍にあっては
ならない汚らしいものが
今、目前にあるのだ。



ふうっ♥スンスン♥
スンスン♥すごい臭いね
プロデュース♥
ちよっとオスの臭いが
キツすぎるん♥
じやないかしら♥

夏葉の言う通り
自分でも分かるほど、
チンポは熟成していて
非常に濃い臭気を放っていた。

すまない夏葉
気になるなら
今からでもシャワーを……

ふふ♥大丈夫よ♥
このままでいいわ♥

なわ…♥

えんし

んん



夏葉は
子犬を愛でるかのよう
舌でチンポを口淫する。
俺の意識とは別に
チンポは愛撫されるたび
ピクンと跳ねあがる。

れろっ♡ちゅっ♡
れろっ♡ちゅっ♡
先走り汁がこんなに
溢れてる…♡
千ユ♡チユ♡れるう♡

んちゅっ♡ぢゅるっ♡ぢゅ
かわいい♡ちゅるるっ♡ぢゅ
プロデューサーの期待汁の
味がロニーのわ
ちゅぶ♡ぢゅるる♡
ちゅぶ♡ぢゅるる♡

くっ！夏葉の舌の
熱が伝わってきて
ヤバいっ！

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

♡♡♡



んぶっ♥ぢゅぶぶぶっ♥
ずぞぞぞぞっ♥
んふっ♥どんおチンポが
大きくなってるっ♥
ぢゅるっ♥ぢゅるっ♥
ぢゅるっ♥ぢゅるっ♥

夏葉はゆっくりと
チンポを口の中へと
収めていく。
ぢゅぶぢゅぶと
アイドルに似つかわしくない
吸着音が夏葉の口端から
零れた。

ぢゅるるるっ♥
んぶっ♥ぢゅぞっ♥
ぢゅるるるっ♥
ぢゅるるるっ♥
おっぱい汗かよって
チンポがしよっぱいわ

んぶっ♥
ずぞぞぞっ♥

んぶっ♥
ずぞぞぞっ♥
ぢゅるるるっ♥
ぢゅるるるっ♥

んぶっ♥

んぶっ♥

プロデューサーの顔を
思い出しただけで
濡れちゃって……
自分を律するのに
大変だったわ……♡

おんふっ♡
おいしい……♡
プロデューサーの
こっつりオスチンポ♡
あふっ♡
ぢゅっ♡
ぢゅっ♡
ぢゅっ♡

♡
♡
♡

あぐっ!
夏葉の舌出し
フェラチオ
エロすぎる……!

ぢゅろっ♡
今日は本当に
大変だったのよ♡
ぢゅぶ♡

ずるるるお♡
ぢゅん♡
ぢゅん♡
ぢゅん♡

♡
♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡



んぶっ♥ぢゅっ♥ぢゆるるるっ♥
だからプロデューサー♥
ゴ褒美にプロデューサーの
あついおちんぼミルクを頂戴♥

普段の夏葉からは
想像できない
いやらしい言葉が出てくる。
夏葉も相当興奮してるようだ。

んぶっ♥ぢゅっ♥ぢゆるるるっ♥
ぢゅぶぶ♥んぶっ♥ぢゆるるるっ♥
どんぽんポがガぢゅぼっ♥
どん射精に近づいてるのね♥♥

んぶっ

んぶっ

んぶっ

んぶっ

んぶっ

んぶっ

んぶっ

んぶっ

んぶっ



んぶっ♥♥んっ♥♥
来てプロデューサー♥♥
プロデューサーのザメン
私がお迎えロマンコするから
いっばい射精してっ!!

あ〜っ!
くそっもう射精るッ!!

頭が射精直前の絶頂感で
チカチカする。
もう限界だ!





びゅびゅっ♡♡びゅるるっ♡
びゅばっ♡びゅくっ♡
びゅくびゅくびゅくっ♡
びゅくっ♡
♡♡♡

すごい量…♥
プロデューサーの
えっちな濃厚ミルクが
こんなに…♥
全部飲み切らなきゃ♥

夏葉は口から漏れた
精液もまるで宝石を扱うように
丁寧に舐めとり飲み干していく。

夏葉
無理して全部
飲まなくて
いいんだぞ

ぐんぐんぐんぐん

んんん

んんん

んんん

いいえ♥プロデューサーが
折角してくれました♥
それにとっても美味しいわ♥

ありがとう夏葉
とても気持ちよかったよ

ああ…
夏葉もたっぷり
気持ちよくして
やるからな……!!

ふふ♥あれだけ射精したのに
さらにオチンポ大きくなってる
プロデューサーそろそろ
私のも……♥

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡